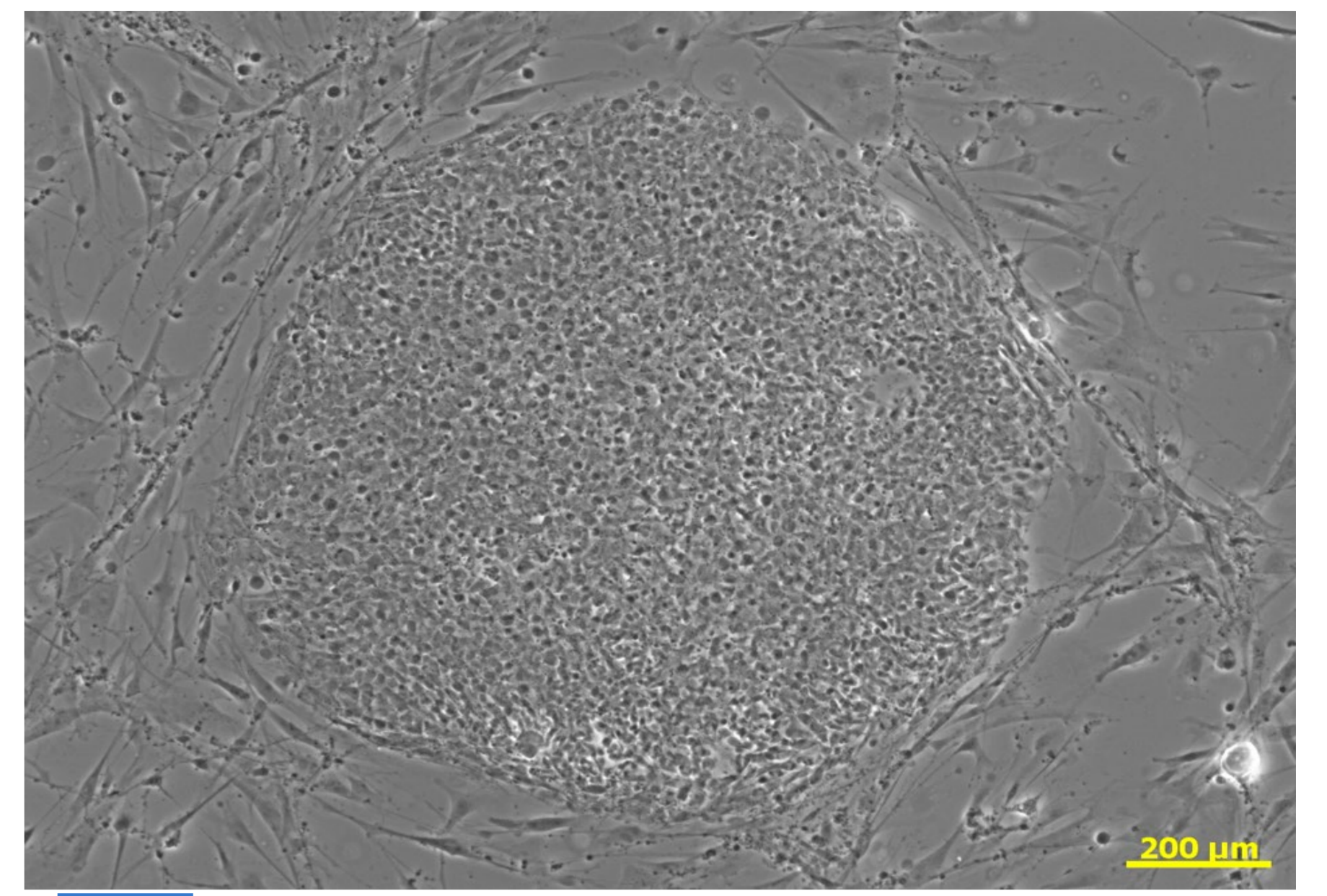


疾患特異的iPS細胞バンク事業

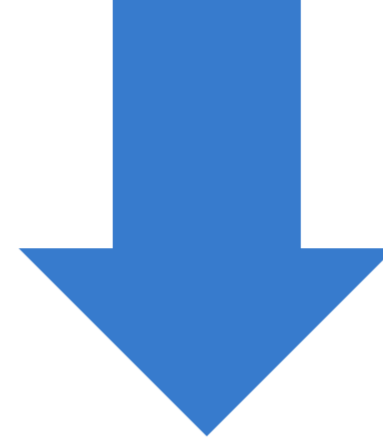
疾患患者



疾患特異的iPS
細胞の作製

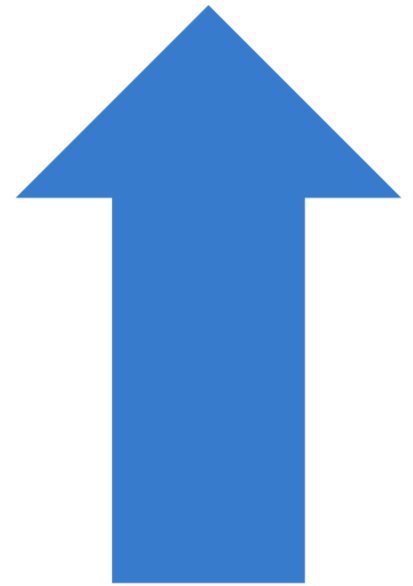


疾患モデル細胞

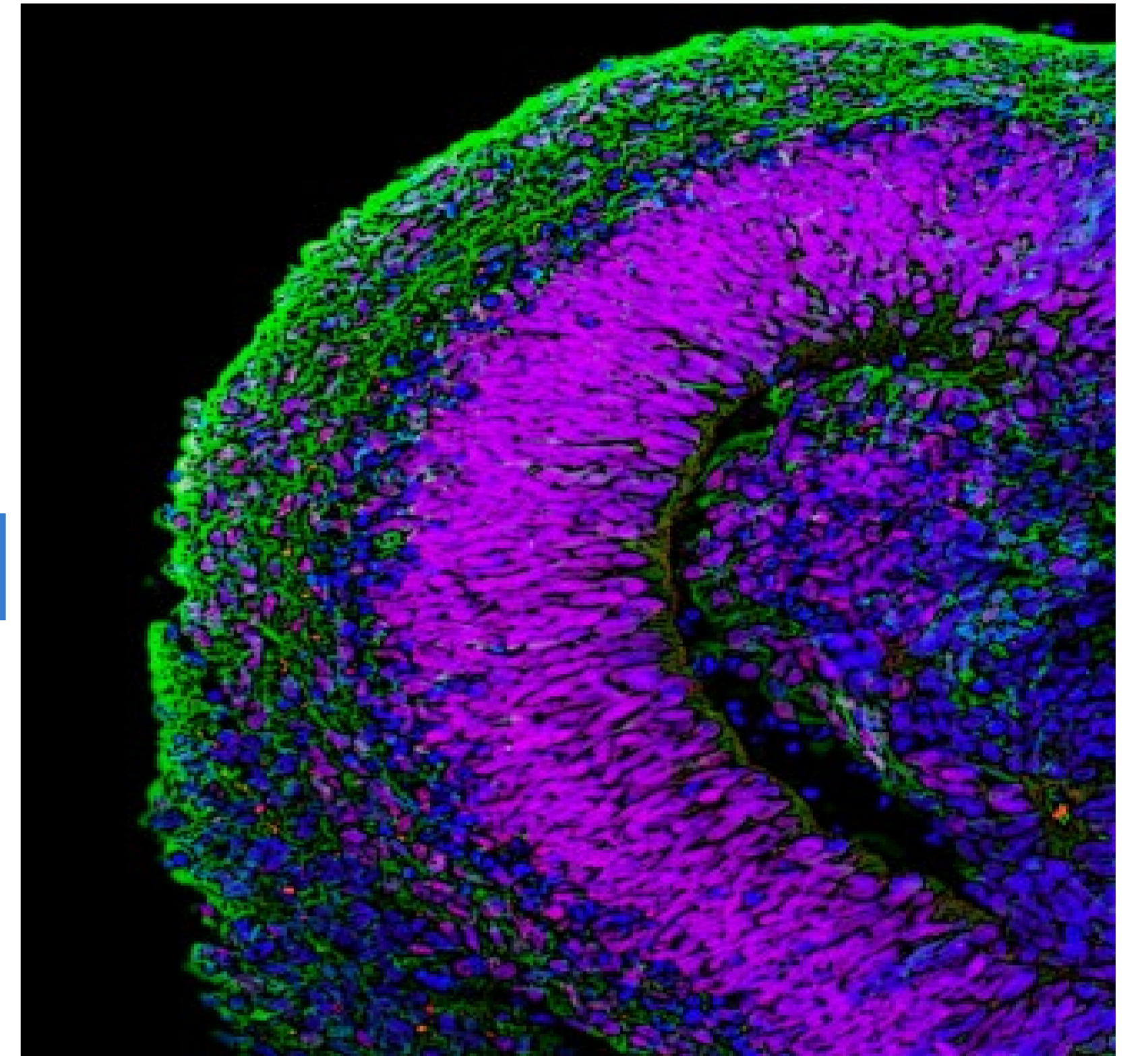


300疾患以上をカバー
800人超の患者に由来
3,000株を超える寄託

新しい
治療薬



疾患研究
創薬研究



●細胞の利用方法

一般細胞株(がん細胞株等)の利用と大きく異なる点は、基本的には以下の二点のみです。

- ・多くの疾患特異的iPS細胞株は、利用機関における倫理審査・承認を必要とします。
- ・営利機関での利用(共同研究を含む)に際しては、iPSアカデミアジャパン社との使用契約が必要です。

●臨床情報の利用方法

臨床情報は、個人情報保護法における「要配慮個人情報」として取り扱う必要があります。以下の点にご留意ください。

- ・利用機関における倫理審査・承認を必要とします。
- ・「理研BRC臨床情報データ利用ガイドライン」と「理研BRC臨床情報データ取扱いセキュリティガイドライン」とをご一読ください。理研細胞バンクのホームページに掲載しております。

他の細胞バンク事業

下記ホームページをご参照ください

<https://cell.brc.riken.jp/ja/>

ご質問等は下記メアドにお願いします

cellqa.brc@riken.jp

室長



中村幸夫
2003年の着任以来、従来の細胞バンク事業では取り扱っていなかった幹細胞材料の整備を推進している

- ・ES/iPS細胞
- ・ヒト体性幹細胞